

# 先憂後楽



『先憂後楽』とは、「国の大事については、世の人々に先立って憂い、そして国がよく治まり人民が楽しんでいるのを見届けてから初めて自分も楽しむ」という意味です。  
(題字揮毫 林田悠紀夫先生)

2006.2 第24回 府政報告 多賀久雄事務所  
〒626-0008 京都府宮津市万年895-8 TEL(0772)22-6335 FAX(0772)22-6335  
<http://www.tango.or.jp/taga/> E-mail: taga@tango.or.jp

## みんなで創ろう！輝くふるさと

### 寒中お見舞い申し上げます

会員の皆様には大雪にも負けずお元気でお過ごしのことと存じます。

さて、当地域でも本年3月1日に与謝野町が誕生いたしますが、府下全域で行われておりました合併協議によりまして、昨年10月11日には京丹波町が、本年1月1日には南丹市と三和町、夜久野町、大江町を編入した福知山市が誕生いたしました。

与謝野町はもとより、それぞれの合併市町において、合併協議で目指したまちが一日も早く実現できるよう、自由民主党府会議員団一丸となって支援してまいりたいと存じます。

今冬はことのほか雪も多く、いよいよ寒さも厳しくなってまいります折ですので、お身体ご自愛なさいますようお祈りいたします。

京都府議会議員 多賀久雄



自民党議員団を代表して知事に雪害の緊急要望



総務委員会管外調査



天橋立リバス実行委員会の皆様と知事に中間報告

## 新春を寿ぎ山田知事と語る

山田 あけましておめでとうございます。旧年中は、一議員としてだけでなく、自民党府会議員団の代表幹事としてもご指導、ご支援いただきありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

多賀 あけましておめでとうございます。こちらこそ、旧年中はいろいろお世話になりました。本年もよろしくお願いいたします。私は普段どおりの正月でしたが、知事は、12月定例会で再選に向けての決意を表明されましたので、すっきりした気分のいいお正月だったのではないですか。

山田 そうですね、意思がまだ固まっていなかったら、一年の計は元旦にありということで、そのことだけを考えるお正月になっていたかも知れませんね。

多賀 いい春にもしたいですね。ところで、知事が率先垂範で職員を引っ張っていらっしゃることに共感を覚えているんですが、「職員が息切れするんじゃないかなあ」という不安も若干感じております。そもそも知事は、府民のためにどんな府庁にしたいと考えておられるのですか。



山田 私は、府民の皆さんひとり一人が力を発揮できる京都をつくらなければならないと思っています。そのためには、府民の立場に立って考え、府民の皆さんが力を発揮できるよう、しっかり支えていける府庁にしたいと考えています。

私は、選挙に立って、府民の皆さんに接し、改めて今の厳しい状況を噛みしめました。いま、公務員批判が盛んに言われますが、府民の生活実態と府庁の意識の間には温度差があるという面は否定できないと思います。府庁が本当に府民の皆さんを支えられるようになるためには、この温度差を解消することが必要です。

多賀 私も宮津市の職員時代、市長の訓示や各種の研修などで、耳にたこができるくらい自己変革という言葉をお聞きしました。先ほどのお答えにも関連すると思いますが、組織改革、意識改革など、職員に大きな変革を求めておられますが、どの程度手ごたえを感じておられますか。

山田 意識改革は、今言った温度差を解消するためのものですから、言葉で話してすぐに理解でき

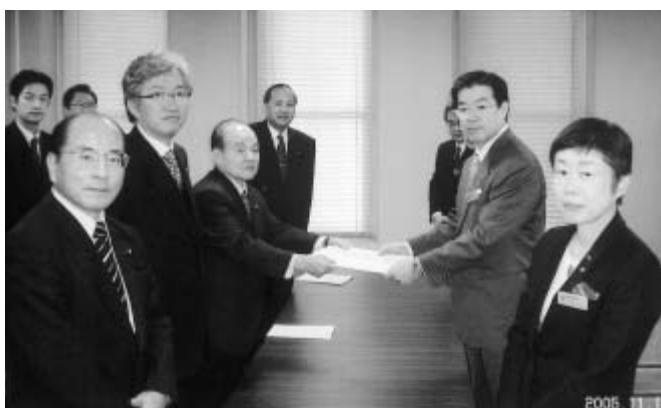
るものではありません。府民の皆さんの中に出来るだけ入っていくことでしか、実感できないと思っています。ですから、議会のご意見を伺いながら、400人以上の府民の皆さんが入って政策を議論している「アクションプラン」や、職員が府民の皆さんに施策を説明する「出前語らい」などで、府民の皆さんに接する機会を増やすとともに、私自身、鳥インフルエンザの時のように、常に先頭に立って現場に入っていく姿勢を示すことによって、少しずつ意識の変革が出来るのではないかと考えています。

その結果、新規事業を見ても、新しいことにチャレンジしていこうという意識がかなり出てきました。新しいことにチャレンジしていくことで、府民の賛否がより明確に表れます。そうすることによって、府民の皆さんの生活を踏まえた意識へと、変革が進んできていると思います。

多賀 人と間の間に中ぼつを入れた人・間中心や文化力など、造語というか、何となく思いのこもった言葉で表現することに知事はこだわっておられるようですが、何か特別の思いがあるのですか。  
山田 過去の言葉で今の思いを表すのは難しいことですし、当たり前言葉でしゃべってもすぐに雲散霧消してしまいます。新しい言葉を使うことによって、自分自身考えるきっかけをつかみたいという思いがあります。ですから、言葉にこだわっているように思われるのかもしれませんが。

とにかく、目的は、間接行政中心でどうしても府民生活から離れがちな都道府県において、いかに府民の思いを中心に据えた府庁にできるかということであり、これからも失敗を恐れず、私自身、常にチャレンジしていきたいと思っています。

多賀 「挑戦しなければ前進はない」。数ある山田語録の中で私が最も好きな言葉です。私もがんばりますが、知事選勝利に向かってがんばってください。



知事への予算要望



谷垣財務大臣に予算要望

\*\*\*\*\*

## 「しつけ」と「虐待」

(京都第二赤十字病院院長 澤田 淳 先生の講演要旨の一部を紹介します)

3、4歳になると、自己主張が出てきて、何の意味もなく、「いや!」とか「だめ!」とか「嫌い!」という言葉を楽しんで使います。本当にそう思ってはいないのですが、「嫌い」と言われたら、親はかっとして不機嫌になりますが、こんなことは子どもの発育期には当たり前のことです。だから、「今度は好きになってね」、「またね」程度に上手に聞き流したらいいのです。

この段階は、生活習慣や社会習慣の基本を教える、覚えさせることが必要なのです。まず、「おはよう」、「おやすみ」と言える子、「行ってきます」、「ただいま」と言える子どもにしてほしいのです。「おはよう」などは、本当に基本のあいさつでありながら、会話をつなぐ非常に大切な言葉です。「おはよう」、「おやすみ」は早い時期に覚えることが出来ます。

次に、子どものしかり方です。

3、4歳の子どもの叱るときには、「\_\_\_\_\_ことはしてはいけない」、「\_\_\_\_\_ことをすると、

\_\_\_\_\_のために困るからね」と教えて、その後、「お母さんの言うこと、わかってくれた？」と聞いて、子どもが「ハイ」と答えたら、「お母さんの言うことを聞いてくれて、ありがとう」と言って、抱き締めてほしいのです。すぐに忘れるでしょうが、この年齢では当たり前、繰り返してください。

8歳の子どもでも、「こういうことをしたらいかんのだ。これからこんなことをしないように頼むよ。わかってくれた」と言って、「わかった」と返事をしたら、抱きしめるとか、握手をすればいいのです。そうすると、次に顔を合わせても、スムーズに見合うことができます。子どもを叱るには、テクニックがあり、「感情的に怒らないこと」、「怒りっぱなし」、「そっぽを向きっぱなし」という関係をつくらないようにしてください。なぜ、怒られたのかわからないような怒り方、親の都合で怒ったり、怒らなかつたりでは子どもが迷います。「怒る」と「叱る」は違います。

子育てのずれ、ひずみが段々と「虐待」の方向へと進んでいきます。お母さんは、子育ての最中に、「夫は手伝ってくれない。私のしんどさをわかってくれない」と感じ、気持ちに余裕がなくなり、子どもに当たってしまう。また、姑のすること、言うことにも傷つくことがあります。「こうしなさい、ああしなさい」と言われると、わかっていて、しているつもりなので、そこを非難されると、お母さんは傷ついてしまいます。毎日、子どもと2人だけの生活になってしまって、「お父さんは遅くならないと帰ってこない。この子がいなかったら、どんなに楽な良い生活ができるのだろうか」という気になることが、「虐待」の引き金になってしまいます。子どもを怒鳴ってしまって、たたいてしまいます。私が一生懸命ご飯をつくったのに、食べてくれないと、「この子は私を否定している」と思うてしまう。このようなことがだんだん積み重なってくるのです。

「しつけ」と「虐待」の違いは、「しつけ」は子どもに生命の危険をさらさせないのです。身体的、精神的障害を残さないのです。「しつけ」には、前を上手に歩いている人の姿、背中を見せればいいのです。お父さん、お母さんが子どもに対して、「私の背中を見てついて来なさいよ」と言えるかが大事なのです。



加悦登山マラソン



旧加悦鉄道機関車重要文化財指定記念式典

## 雑感

編集部より

昨年12月半ば頃から今年1月上旬に東北、北陸、近畿北部、兵庫北部方面は例年になく大雪となりました。それに伴い各地で家の倒壊、除雪による滑落死、突風による列車脱線事故、スキー場の閉鎖、献血の減少により血液不足の危惧と冬将軍は様々に災害をもたらしている。

又、一昨年台風23号による近畿北部、兵庫北部の水害などを振り返っても、異常な降水量とそれによる土砂崩れ、家の倒壊など、数多い被害が起こった。

新潟の地震、それにこれからも各地で起こりうる地震や津波、自然の猛威！

雨・雪の増量、温暖化による水位の上昇、地球がおかしい！

これから先、より大きな自然災害の警鐘を鳴らしている。